

# 滝野隆浩の 掃苔記

ダジャレっぽい名前はともかく、スマートフォン利用の安否確認アプリ「元気にしTEL?」(アンドロイド用)はすぐれものだ。独居の高齢者だけでなく、1人暮らしの息子が心配な親たちも利用しているらしい。アプリを提供するNPO「楽市楽画」理事長の打田純二さんに会いに行った。

## 「安否確認」スマホなら

なんでも、1人暮らしで死亡するケースのうち「急死」は1割で、9割は助けを求めているうちに亡くなるという。助けるには①意識が残っている②現在地を伝えられる③助けを呼ぶ操作ができる———が必要だ。打田さんはスマホに目をつけた。

専用アプリを取り込めば、あとの操作は簡単。毎日3回、6時と正午、18時に安否確認の画面が出てくる。その画面をスワイプ(指を滑らせる)するか、充電器を抜き差しすれば「元気でいる」のサイン。一方、それが一定期間なかったら「異常事態」と判断して、決めておいた複数の連絡先に「救援要請メール」がGPS(全球測位システム)の位置情報と一緒に自動発信される。

単身者の安否確認サービスは、湯沸かしポットの使用状況でみたり、専用センサーを使ったりするものなど多数ある。ただ「監視されてみたいでイヤ」という人も多い。このアプリはスマホを触るだけ。しかも、使用料は月額1000〜5000円だ。

もうひとつ、「緊急第三者発信」(通称「お節介発信」)という機能もある。「もしかしたら?」と不安に思った家族らが、やや長めに設定された秒数(45〜59秒間)だけスマホを呼び続ければ、その人が今いる位置情報が自動発信される。自宅外でも居場所がわかるのだ。家や施設を出て行方の分からなくなったお年寄りや、災害や山で遭難して身動きが取れないケースでも威力を発揮する。

打田さんは関西に実家があり、阪神大震災の甚大な被害とその後の復興住宅での1人暮らしの死亡事案に心を痛めた。加えて民生委員をして見聞きした経験からアプリは生まれた。「これ、暗いソフトなんです」という。いやいや、単身世帯の不安に、光を当ててるアプリだ。

(社会部編集委員)